

平成20年度 府立北桑田高等学校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン)

学校経営方針(中期経営目標)		昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 学力の充実・向上	2 希望進路の実現 3 地域から信頼され、地域の誇りとなる生徒の育成	(1)学校経営 【成果】・土曜補習の実施(年間20回) ・地域との連携 ・部活動、生徒会活動の活性化(奉仕活動の実践その他) ・小中との連携 ・防災訓練、施設設備点検の実施 【課題】・進路補習、授業、集中学習会の体系化 ・服装指導の充実 ・寮の施設を含めた老朽化施設の改善 ・舎監1名による寮管理 ・中学校との連携の充実 ・広報活動の充実 ・学校評議員会の活用 (2)学校教育 【成果】・生徒の怪我、病気、問題行動への組織的対応 ・管理職、教職員間相互の緊密な連携 ・シラバスの充実と模擬試験の分析 【課題】 ・進路指導計画の体系化 ・府立高校実力テストのより有効な分析と活用 ・研究授業の充実 (3)職員の管理・育成 【成果】・部長会による調整 ・本校の課題を地域の課題として理解してもらった ・研修、教職員評価による教員の意識改革 ・衛生委員会の開催(年2回) 【課題】・部長会の議論の活発化 ・地域の教育保障 ・生徒による授業評価の活用 ・情報管理に関する校内マニュアル作成 ・教職員の健康管理、業務分担の適正化	1 学力充実向上 (1)研究授業・公開授業の実施等による教科指導力の向上 (2)シラバスに基づく計画的学習指導による自主的・意欲的学習習慣の確立 (3)個々の能力を伸ばす学習指導の工夫 2 個々の生徒の潜在能力を引き出す3年間を見通した開発的な進路指導計画 (1)土曜補習の実施、活用 (2)進路補習の計画的な実施 (3)日常の学習成績と模擬テストのデータを分析・活用した進路指導の強化 3 地域から信頼され、地域の誇りと期待を担う生徒の育成 (1)府内広域からの生徒募集を図り、目的意識の高い生徒の確保 (2)全教職員が共通理解・認識をもった学校運営の実施 (3)教職員の情報共有と共通理解の上立った生徒とのコミュニケーションの強化 (4)特色ある教育課程や部活動の推進 (5)積極的な広報活動による中学生及び地域への本校教育活動の周知徹底 (6)小・中・高の連携・接続の強化 4 教職員の健康管理 (1)勤務時間を適正にし、教職員と家族の心身の健康を保持する。

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
分掌	組織・運営	学校教育目標を焦点化し、その具現化を図る。 連携を重視した組織体制の確立を図る。	テーマ別の小会議により目標に対する取り組みの焦点化と効率化を図る。 PTAや学校評議員との連携により評価の点検・改善を行う。 職員会議、部長会議、職員朝礼の棲み分けによる会議の効率化を図る。 分掌及び教科会議を充実させ、具体的な取組の進捗状況の点検、改善を行う。		
	家庭・地域との連携	家庭・地域社会との連携を深め、相互の情報交流を図る。	PTAメール等によるタイムリーな家庭への連絡体制を確立する。 地域社会・関係諸機関等の行事参加や開放講座等などの開催 各学期2回、学校便りを発行することなど、広報活動を積極的に推進する。		
	研修・研究活動	研修・研究による指導力向上	課題に即した校内研修会を実施する。 小・中・高の連携した授業研究を行う。 センター研修の積極的な利用を図る。		
総務部	人権教育	生徒の進路や生き方と関連させ、人権意識の高揚を図り、人権問題に対する正しい理解、認識の基礎を養う	分掌や担任、家庭、地域、関係教育機関と連携し、人権上の課題の実態を把握し、解決に努める。 教職員の人権教育の力量を高めるため、人権問題に関する職員研修を充実させる。		
	PTA等渉外関係	本校の将来展望を見据え、家庭、地域、各関連機関と連携し、適正なPTA運営を図る	計画的で適正文書作成と公文書の発送を行う。(会議案内・選挙関係案内など) 「北桑田高校の未来を創る会」の適正かつ効率的な企画運営を図る。 昨年度の総括を基に地域別懇談会の企画運営を充実させる。 招へい事業の適正な運営に努める。 通学路安全確保面で京都市との連携を図る。 通学バス関係で南丹市との連携を図る。		
	広報活動	広報活動の充実を図る	学校だよりの企画改善を図り、地域への広報活動を積極的に推進する。 PTAメールの配信について関係機関と連携し実現に努める。		
	図書館管理等	図書館利用の推進	図書委員会による企画、展示の充実を図る。 司書教諭と協調して教職員との連携を深め、図書館の利用を促進する。 図書管理システムによる蔵書管理等館内の環境整備を行う。		

教務部	教育課程	特色ある教育課程の編成	学科・類・類型や生徒の実態に応じた特色ある教育課程を編成する。 適切な教育課程経営を推進する。		
	教科指導	シラバスに基づく計画的な学習指導を発展させ、生徒の学習習慣の確立に資する。	シラバスを公開し、生徒に明確な目的や具体的目標をもたせ、予習・復習の継続を促す。 授業アンケート結果に基づき、学習指導の工夫と授業改善に努める。 研究授業・公開授業を実施し、教科指導力の向上を図る。		
	広報活動 校種間連携	選ばれる学校を目指し、本校の特色を積極的にアピールする	総務部と協力して体験セミナーの改善と工夫を行う。 総務部と協力して地域の小中学校との連携を図り、一貫性ある教育活動を目指す。 学校説明会でのプレゼンテーションの改善と工夫を行う。		
進路指導部	進路指導	生徒の目的意識を高め、明確にさせていくための計画的・系統的な指導の確立	各学年に応じた進路指導目標及び計画を充実させ、その具体化に努める。 進路学習及び進路説明会等の系統化とその内容の充実を図る。 土曜日・放課後・休業中等の計画的・継続的な進路補習を進める。 模擬試験を分析し効果的な活用に努める。		
		主体的な進路選択能力の養成と学力の向上	模擬試験、資格・検定試験等の受験を勧め、進路選択能力をつけさせる。 進路情報の収集・整理に努め、日常的な進路相談活動の充実を図る。		
生徒指導部	生活指導	基本的な生活習慣を身に付けさせる	制服を正しく着用する指導の強化 朝の登校指導及び遅刻指導の継続 定期的な全校集会の実施		
	部活動	部活動加入の奨励と活性化	特に1年生の部活動加入率の向上を目指す。 生徒激減期を見据えた部活動の精選及び強化を図る。		
	生徒会活動	生徒会活動の活性化 ボランティア活動の推進	学園祭を中心とした生徒会行事の発展、充実を図る。 全校生徒を巻き込んだ校内ボランティア活動の実施		
	安全指導	交通安全指導の強化 不審者等への対応強化 校内の安全確保	4ない運動+1の堅守と自転車通学の安全指導強化 危険を回避することを主眼とした不審者対応策の指導を充実 校内巡視等の実施による危険の早期発見と対応できる体制の構築		
第一学年部	学習指導	学習習慣の養成と学習に対する基本姿勢の確立	授業を大切にさせ、落ち着いた学習に取り組める雰囲気作りを努める。 学習・部活動等のバランスを考え、予習・復習を含む家庭学習の時間を確保させる。		
	生活指導	基本的な生活習慣の確立	自律的で規律ある学校生活が送れるよう指導する(遅刻指導、挨拶の励行)。 他人の気持ちを尊重する人権意識と、清掃活動等、環境美化意識が高まるよう指導する。		
	進路指導	三年間を見通した計画づくりと指導の充実	将来の進路について理解を深め、目標を持って高校生活を送る姿勢を確立させる。 進路指導部との連携を図りながら、計画的な進路指導を進める。		
第二学年部	学習指導	学習習慣の定着と学習意欲の向上を図る	教科担当者との連携をより密接に行う。 “わかる”ことを通して学びの姿勢を身につけさせる。		
	生活指導	学校生活において中心的な役割を果たせるよう自覚を促す	規律ある生活態度を育成する(遅刻指導、挨拶の励行)。 部活動や学校行事等で中心的な活動ができるよう自覚を持たせる。		
	進路指導	進路実現に向けての具体的な方途を描かせる	進路に関する情報収集能力を高める。 保護者や進路指導部と連携して進路決定へと導く。		
第三学年部	学習指導	進路実現に繋がる授業を中心に据えた学習姿勢をつくる	進路実現にむけ、計画的・自主的な学習姿勢を確立させる。 最後まで授業を大切に、また土曜を有効活用した日々の学習習慣を定着させる。		
	生活指導	最上級生として自覚を持った生活態度を確立し、率先して行動できる力をつけさせる	最上級生として、あるいは社会へ巣立つ直前であることを自覚した規律ある生活態度を確立させる。		
	進路指導	希望進路を切り開き、全員達成させる	行事等、リーダーシップを持ち行動する力を育成する。 面談、情報提供を適切に行い、生徒・保護者・学校の連携を密にした進路指導を推進させる。 進路を人生設計の重要な課題として自覚させる。		
保健部	健康安全管理	保健管理、健康教育を充実し、生涯にわたる健康づくりを目指す	健康診断結果に基づく健康指導を充実させる。 各学年、各分掌との連携により生徒の課題をふまえた保健学習を充実する。 教育相談会議や学校保健会議等を充実させる。		
	学習環境整備	清掃美化に努め、良好な学習環境を確立する。	清掃用具の点検、補充と計画に基づく清掃活動の徹底に努める。 美化委員の活動を活発にし、良好な学習環境を確立する。 エコ活動への意識向上のため、ゴミの削減や分別、節電などに努める。		
農場部	農場管理	農場収入と圃場の計画的な運営	演習林及び圃場の適正な管理と安全教育の実施 農場部一丸となって農場収入を充実させる。 中国陝西省での交流事業及び海洋高校との連携事業の継続と成功に向け計画的に取り組む		
	専門学科教育	進路指導部との連携と、誇りの持てる専門教科指導	誇りの持てる進路指導と教科指導の実践 農業クラブ大会への積極的な取り組みと入賞を目指す 専門教科での実習の充実と安全教育の徹底		
寮務部	寮運営	愛情と規律のある寮運営を図る	定期的な食事内容の検討や施設設備の点検・改善等、寮環境の充実に努める。 寮生との対話や保護者との連携を密にし、寮生活に関する情報の共有化を図る。 愛情ある指導を行い規律厳守を徹底する。		

事務部	学校財政	特色ある学校づくりを推進するため機動的、積極的な財政運営に努める	・特色ある学校づくりや地域に開かれた学校づくりを推進するための予算措置を機動的、積極的に行い学校運営の一翼を担う。 ・電気、水道等の義務的経費を抑制するため日常点検を行うと共に、支出の精査・精選により、最小経費で最大効果が得られるよう努める。 ・預り金や寮費等の私費会計の適正な管理を行うと共に、保護者の負担軽減に努める。			
	施設設備	安全で快適な施設設備の充実を図る	・日常点検による不良箇所の早期発見と早期の処置を行う。 ・バリアフリー対策を更に進め、安全で快適な環境を整える。			
	情報管理	個人情報保護の観点から、文書やデジタル情報の管理を適切に行う	・公文書の整理、保管、廃棄を適切に行う。 ・情報保護のための環境を整える。(机のカギ整備、保管庫整備等)			
国語	教科指導	言語を媒介にした思考力を身に付け、文章読解力、表現力を向上させる	小テスト、課題などを通して基礎学力の徹底を図る。 さまざまな文章に親しませ、視野を広げ、思考力を養う。 古典に親しむ態度を育てるとともに、文法の理解を深める。 論理的な構成を工夫して自分の考えを文章化する力を培う。			
地歴公民	教科指導	計画的・系統的・効率的な教科指導 基礎学力と実践力の向上	年間指導計画やシラバスに基づいた授業の展開 生徒の興味関心を高め、理解を深めるような教科指導の工夫 教科書を中心に補助教材や基本問題を通しての基礎学力の充実 応用問題・レポート課題を通しての実践的学力の向上			
数学	教科指導	基礎・基本の定着を図り、学習習慣の確立を目指す。 応用力の伸張を図り、進路希望実現に向けた学力を身に付けさせる	生徒の学力及び意欲に対応した、習熟度別講座編成を展開する。 定期的小テストを実施することにより、基礎的な内容の定着を図る。 日常的に課題を提示し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 発展問題の演習や補習を通じて応用力の伸張を図り、個々の生徒の学力向上を目指す。			
理科	教科指導	自然に対する関心を高め、観察・実験などを通じて科学的に探求する意欲と態度を育てる	小テスト、課題等を通して基本的な学習内容の定着を図る。 観察・実験等、自然の事物・現象に対する理解を深める工夫をする。 生徒の理解度に応じて、補習や補充の手立てを行う。			
保健体育	教科指導	生涯にわたって健康・安全を基礎として、主体的に運動を実践していける知識や技術を身に付けさせる。	基本的な生活習慣を身につけさせ、授業を休まず、全力で取り組めるように指導する。 服装や髪型など、安全に運動できるかどうかを点検する。 器具の取り扱いや技術習得の方法などについての指導を確実に実施する。 器具の準備や準備運動等をはじめ授業を主体的、意欲的に進めよう指導を工夫する。 種目の特性や技術を理解して、積極的に取り組み、技術を向上させる。 実技評価について研究し、授業の目標を明確にすることによって、指導のレベルを向上させる。			
芸術	教科指導	教科指導の工夫	芸術表現の基本技術の習得を目指す 芸術作品の基本的な鑑賞力の育成を目指す 芸術を愛好する気持ちを育てる 無理のない年間指導計画の作成			
		施設・設備の活用	作品展示用設備を活用する			
英語	教科指導	教科指導 コミュニケーション能力の向上を図る	家庭学習課題を与え、日々の学習の定着を図る。 小テスト等を実施し、基礎的な学力の定着を図る。 土曜日や放課後・長期休業中等を活用した補習を充実する。 英語検定等の受検を奨励し、対策をすすめる。 AETと連携して指導を充実する。			
家庭	教科指導	生活を主体的に創造する力をもった「生活者」を育成する	日々の授業を前向きに主体的に取り組ませる。 自分自身の生活を見直し改善していけるような学習課題に取り組ませる。 さまざまな人の意見を聞き、多様な価値観に触れ、自分らしい生き方について考える。 知識・技術の習得に加えて、実生活の内容を取り入れた授業にする。 調理や衣服等の実習を通して日々の家庭生活で実践できる力をつける。 保育や介護等の校外実習を通して知識と技術の向上を図る。			
農業	教科指導	進路実現に役立つ職業教育の充実を図る 技術を高め、知識との一体化を図る	早い段階から進路意識を高め職業観を身につけさせる 地域の特色を生かした教材の積極的活用及び高大、高連携等外部講師の活用 習熟の程度に応じた補習の実施と進路相談 資格取得を奨励し、農業クラブ大会での上位入賞を目指す 先進地見学、中国での植林体験などを充実させ様々な活動のきっかけを作る 計画を立て、目標を達成する過程の経験の場を数多く設定する→やりがい			
情報	教科指導	ICT活用能力をはぐむ基本技術の習得 進路に結びつく情報活用能力を育成	講座の特性(情報A・情報C・情報処理)を生かした、実習の展開 習熟度に応じた指導(補講等)を行う。 情報リテラシーの習得。 各種競技会・コンクールへの参加・応募等の啓発及び指導の充実 各種資格取得の実施と啓発・指導の推進 情報機器を利用した情報収集能力の育成			
次年度に向けた改善の方向性						